

看護師のフットケアに対する意識調査 ～フットケア教育の向上を目指して～

キーワード フットケア 意識調査

北 4 階病棟 ○竹宮めぐみ 大場有子 三池由起 黒光和美 本田美穂子

1. はじめに

65 歳以上の高齢者の 70%が足に関して何らかの問題を抱えている¹⁾と言われており、近年フットケアの重要性が注目されている。平成 20 年度の診療報酬改定では、糖尿病患者へのフットケアについて、糖尿病合併症管理料加算が認められた。当病院でも皮膚・排泄認定看護師、糖尿病療養指導士を中心としてフットケア外来が開設され、日々患者の足病変の予防に努めている。

フットケアの一番の目的は、「足のハイリスク疾患を持つ患者の切断を回避し、より快適な日常生活を送れるように援助すること」²⁾である。糖尿病は足の切断につながる足病変のリスクファクターのひとつであり、フットケアの重要性は言うまでもない。当院では糖尿病教室を開催しており、看護師による講義の中にフットケアを取り入れ、受講者のフットケアに対する意識を高めてもらうとともに、足病変のハイリスク患者を拾い上げ、フットケア外来につなげるようにしている。そのため、フットケアにおいて当病棟看護師の担う役割は大きく、フットケアに関わる看護師には相応の知識や技術が求められることも多い。当病棟では現在、フットケアの知識・技術向上に積極的に取り組んでいる。病棟看護師のフットケア外来への院内留学推進もその一環である。しかし実際には看護師の介入不足により患者の足病変に対して個別性のあるケアが提供できていなかったり、ハイリスク患者を確実に拾いあげられて現状もある。また看護師からは「自信がない」「どうすればよいかわからない」というような声を聞かれることもある。その原因として、フットケアの必要性は理解できていても看護師のフットケアに対する意識に何か問題があるのではないかと考えた。そこで、フットケアに対して実際に病棟看護師がどのように考えているのか、どのような点に不安を抱えているのかを明らかにすることにした。この調査を通して、現在生じている問題点の改善やより効果的なフットケアの学習方法を見出すことができ、将来的にはフットケアの充実や看護師の満足感の向上を図ることができるのではないかと考え、今回看護師のフットケアに対する意識について調査・検討を行った。

2. 研究の目的

当病棟看護師のフットケアに対する意識を明らかにし、現在生じている問題点の改善や効果的な学習方法を見出すことができる。

3. 用語の定義

1) フットケア：足の病変の予防と早期発見を目的とした看護師が行う予防的フットケア

2) フットケア表：当病棟が作成したフットケアチェック表

4. 研究方法

1) 調査対象

当病棟に勤務する看護師 25 名

2) 調査期間

平成 22 年 12 月

3) 方法

先行研究を参考にして独自に作成したアンケート用紙を用いて、対象看護師へのアンケート調査を実施する。結果について、糖尿病教室担当経験の有無や、院内でのフットケア外来留学経験によって有意差があるか分析する。

4) 調査内容

- ① フットケアへの関心について
- ② フットケア必要性の判断時期について
- ③ フットケアが必要な患者について
- ④ 現状のフットケアに関する知識について

5. 倫理的配慮

アンケート本文に研究の主旨を説明し、得られたデータは本研究以外には使用しないこと、回答の内容によって不利益を生じないことを明記した。回収は無記名で行った。

6. 研究結果

アンケート回収数 25 枚 回収率 100% (25 名) 有効回答率 100% (25 名)

糖尿病教室担当経験者 52%(13 名)、未経験者 48% (12 名)

フットケア外来への院内留学経験者 36% (9 名) 未経験者 64% (16 名)

1) フットケアへの関心について

フットケアへの関心については、「とてもある」が 16% (4 名)「ある」が 64% (16 名)「どちらでもない」が 16% (4 名)「あまりない」が 4% (1 名)「ない」が 0% (0 名)であり、看護師の 80%がフットケアに関心あることがわかった。また、糖尿病教室担当経験の有無とフットケア外来への院内留学経験の有無の関連を比較すると、糖尿病教室担当経験とフットケアへの関心について有意差が見られた。(図 1) 関心のある理由としては、①糖尿病患者にとってフットケアは重要だ

と思う②実際に足病変のある患者に直面したが、関心のない理由としては①自分自身の知識不足を挙げた看護師が多かった。

2) フットケアの必要性を判断する時期（複数回答）

フットケアの必要性を判断する時期として「入院時」44%（11名）、「退院時」24%（6名）「患者の訴えがあった時」が56%（14名）、「何か異常が起こった時」が60%（15名）「常日頃」36%（9名）「その他」0%（0名）であった。「入院時」「退院時」と選択した理由では、糖尿病教室で、入院時に退院時にフットチェックを行っており、この時期を挙げた看護師が多かった。何か異常が起こった時にフットケアが必要と考えている看護師が半数以上であり、「常日頃」を選択した理由には、異常があったときでは遅いため、予防と早期発見が重要で、常日頃の意識が大切と記述した看護師が多かった。

3) フットケアの必要な患者について（複数回答）

フットケアの必要な患者については「合併症のある患者」60%（15名）「症状や訴えのある患者」32%（8名）「全患者」52%（13名）「その他」24%（6名）であった。「その他」では高齢者や腎不全患者、ステロイド内服患者、フットケアが自分で出来ない人、臥床患者との記載があった。全体の半数以上が合併症や症状を有する患者にフットケアが必要と記載している。「全患者」を選択した理由では、糖尿病患者にはすべてフットケアが必要と記載した看護師が多かった。

4) 現在行っているフットケアについて（複数回答）

「足の観察」88%（22名）「足浴」44%（11名）「爪切り」60%（15名）「たこ削り」4%（1名）「個別の日常生活指導」24%（6名）「フットケアの講義の受講を勧める」12%（3名）「その他」0%（0名）「フットケアを行っていない」8%（2名）であった。「フットケアを行っていない」を選択した看護師はいずれもフットケアの内容がわからないと記載している。

5) フットケアに対する知識・技術について

フットケアに対する知識・技術が充分だと思いかとの質問については、「充分ある」が0%（0名）、「ややある」が8%（2名）、「どちらでもない」が16%（4名）、「あまり充分でない」が60%（15名）、「全く充分でない」が16%（4名）であり、フットケアの知識・技術に自信を持っていない看護師が全体の92%を占めた。

また、糖尿病教室担当経験の有無とフットケア外来への院内留学経験の有無の関連を比較すると、フットケア外来への院内留学経験との関連について有意差が見られた。（図2）

「皮膚異常の判断について」は全体で「充分ある」「ややある」が40%（10名）、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」が60%（15名）であった。

「感覚異常の判断について」は全体で「充分ある」「や

やある」が28%（7名）、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」が72%（18名）であった。

「血流異常の判断について」は全体で「充分ある」「ややある」が36%（9名）、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」が64%（16名）であった。

「爪異常の判断について」は全体で「充分ある」「ややある」が36%（9名）、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」64%（15名）であった。

「創の有無の判断について」は全体で「充分ある」「ややある」が64%（16名）、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」が36%（9名）であった。

「ニッパーの使用について」は全体で「充分ある」「ややある」が16%（4名）、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」が84%（21名）であった。

「コーンカッターの使用について」は全体で「充分ある」「ややある」が0%、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」が100%であった。

「モノフィラメントの使用について」は全体で「充分ある」「ややある」が0%（0名）、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」が100%（25名）であった。

「治療の連携方法について」は全体で「充分ある」「ややある」が12%（3名）、「どちらでもない」「あまり充分ではない」「全く充分でない」が88%（22名）であった。

これらの中で、糖尿病教室担当経験の有無とフットケア外来への院内留学経験の有無の関連を比較して有意差が見られたのは「創の有無の判断について」の項目と「爪異常の判断について」の項目であった。（図3、図4）

7. 考察

1) フットケアへの関心について

フットケアへの関心については全体の80%が関心があることがわかった。特に糖尿病教室担当経験がある看護師について有意に差が見られ、関心がより高いことが言える。これは糖尿病教室入院中にフットケアが組み込まれており、意識して関わっていることが考えられる。

2) フットケアの必要性を判断する時期について

全体の半数以上が「患者の訴えがあった時」「何か異常が起こった時」を選択した。「常日頃」は全体の半数以下であり、日頃の足の観察による予防的フットケアというよりは足病変の早期発見や適切な処置といったものに関心をもつ傾向にあることが推測される。糖尿病教室担当経験がある看護師は「入院時」「退院時」を

選択した割合が多く、これはこの時期にフットケア介入が定着しつつあることが原因と考えられる。

3) フットケアの必要な患者について

全体の半数以上が「全患者」の中に糖尿病患者を挙げている。また、合併症や症状の有無に関わらず糖尿病患者にはフットケアは必要という意識は高い。しかし、当病棟には糖尿病以外にも何らかの合併症を有する患者も多いため、「合併症のある患者」を選択した看護師が多かったと考えられる。

4) 現在行っているフットケアについて

全体の80%以上が「足の観察」を挙げており、フットケアとして足を日々観察する意識が高い事がわかった。「足浴」「爪切り」の割合が高かったのはフットケアとしてだけではなく、日常生活援助として実施していることも原因として考えられるだろう。たこ削りのように技術を必要とする項目は割合が低く、実施できていない傾向にある。

5) フットケアに対する知識・技術について

「充分ある」「ややある」がわずかに8%であり、病棟看護師の大多数がフットケアに対する知識・技術が充分ではないと考えていることがわかった。しかし、現在行っているフットケアの項目では全体の92%が何らかのフットケアを実践していると回答しており、知識・技術が充分でないと感じながらフットケアを行っている看護師が多いことがわかった。また、糖尿病教室担当経験・フットケア院内留学経験との関連をみると、フットケア外来留学経験のある看護師が「充分ある」「ややある」と回答している割合が高く、フットケア外来への留学経験がフットケア実践に対して効果的であったと考えられる。異常の判断力については、「爪の異常」「創の有無」の項目について有意に差があり、糖尿病教室担当やフットケア外来への院内留学によって実際の症例を見る機会の多い看護師の方が判断力があると感じていることがわかる。しかし、他の項目については糖尿病教室担当やフットケア外来院内留学経験の有無に関わらず、全体の半数以上が十分な判断力がないと考えており、目で見て異常とわかる項目には多少自信があっても、それぞれの知識や自己のアセスメントが必要とされる項目については判断力の不足を感じていることが推測される。特にニッパーやコーンカッター、モノフィラメントの使用についてはほとんどの看護師が技術が充分ではないと考えており、実際に行っているフットケアの項目の中で「たこ削り」がわずかに4%であったことから、実践できていないことで技術が身に付かず、結果自信を持って実践できていないという悪循環に陥っていることが考えられる。西田は「自分のケアに自信をつけるためには、①知識を得る②見る③やってみることで自分なりの“根拠”を持つことが大切」²⁾と述べており、患者の事例を通してさまざまな足病変に触れ、どのようなフットケア

が必要かを自分たちでアセスメントしながら実践し、その結果を振り返るような機会を作っていく必要がある。また技術に対しては実際に道具に触れ、使ってみるような実践的な学習会を行っていく必要があると考える。しかし看護師一人で判断することが困難なこともあり、フットケア表を活用して問題のある患者について話し合えるフットケアカンファレンスの実践も効果的ではないかと考える。

8. 結論

1) フットケアへの関心度については糖尿病教室担当経験が大きく影響している。

2) 知識・技術については糖尿病教室担当・フットケア外来への院内留学経験の両方が大きく影響している。

3) フットケアの実践にはそれぞれの看護師の経験やフットケアに対する自信が影響していることがわかった。

4) 実践をまじえた学習会等の開催やフットケアカンファレンスの実施が効果的であると考えられる。

5) 今後フットケアを行った患者の症例を収集し、事例を通して自分たちが行ったフットケアを振り返ることができるような機会を作っていく必要がある。

9. おわりに

今回の研究はあくまでもフットケアに対する看護師の意識の調査であり、結果として有意に差のある項目は少なかったが、研究によって明らかとなったことを参考にして今後の病棟としてのフットケアへの取り組み方を考え、学習会開催やフットケアの実践につなげていきたいと思う。

引用文献

- 1) Birrer R, et al.: Common Foot Problems in Primary Care. 2nd ed, Hanley & Belfus, Philadelphia, 1998
- 2) 西田壽代監修 日本フットケア学会編集 はじめよう！フットケア第2版 P1 日本看護協会出版会 2009
- 3) 西田壽代 ころと対話するフットケア Nursing Today 281 P15, 2007

参考文献

- 西田壽代監修 日本フットケア学会編集 はじめよう！フットケア第2版 日本看護協会出版会 2009
- 國本鈴子 鶴岡恵理 看護師のフットケアに対する意識調査 プラクティス Vol.22 No.3 345-347 2005
- 竹村真知子 佐藤理恵 伊藤宏美 富田絵美 フットケアに対する透析室看護師の意識の変化 長野赤十字病院医誌 22: 52-27, 2008

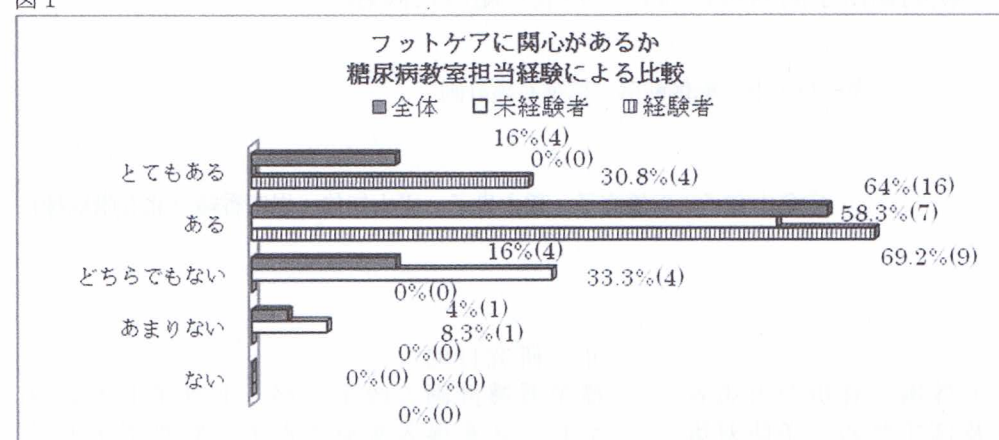


図 2

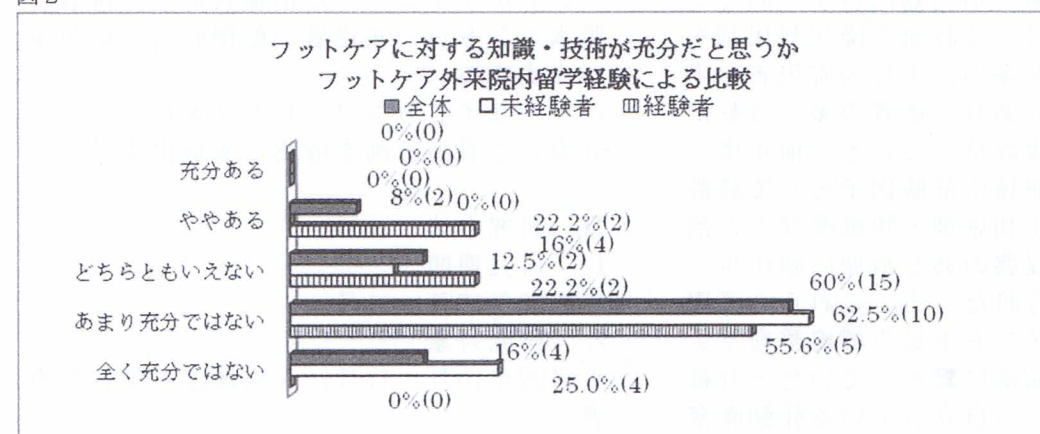


図 3

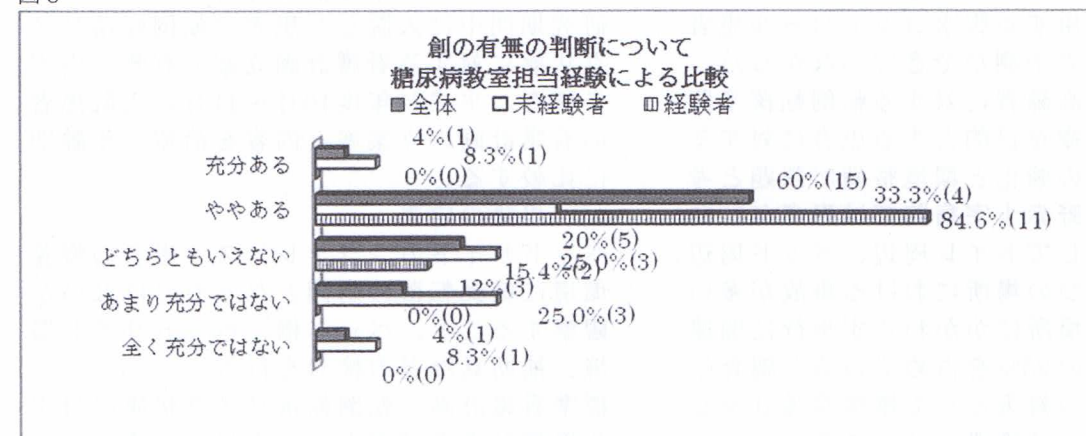


図 4

